平成２４年４月２７日
日本原子力発電株式会社

平成２４年度　東海発電所・東海第二発電所の年間主要事業計画について

当社、東海発電所、東海第二発電所の平成２４年度の事業計画について、本日、安全協定に基づき、「東海発電所・東海第二発電所の年間主要事業計画書」を関係自治体へ提出しました。

提出した「年間主要事業計画」の概要については、別紙のとおりです。

（別　紙）

平成２４年度　東海発電所・東海第二発電所の事業計画概要

以　上

別　紙

平成２４年度　東海発電所・東海第二発電所の事業計画概要

東海発電所は、熱交換器本体の解体撤去を昨年に引き続き確実に進めていくとともに、廃止措置工事を着実に実施・継続してまいります。

また、放射性物質濃度の極めて低い廃棄物（レベル３）の敷地埋設に関しましては、今後とも地域の皆様のご理解を得られるよう努めてまいります。

東海第二発電所は、平成２３年５月２１日から開始しました定期検査において、一部の常用機器について地震の影響を受けていることを確認したことから、補修及び強化工事を実施し、健全性を確保してまいります。

また、地震・津波に対する緊急安全対策として、「非常用電源の確保」、「冷却水の確保」、「重要建屋の浸水防止」等の対応を迅速且つ確実に実施するとともに、「大容量代替電源の配備」、「大容量送水ユニットの追加配備」を行い、「恒設の新たな冷却水送水配管の追設」、「海水ポンプモータ予備品の確保」、「重要建屋の水密扉化」並びにこれらを踏まえた「手順の確立と訓練」を継続して実施しております。

今後、「海水ポンプ室防護壁の更なる嵩上げ」、「防潮堤設置」に向け準備を進めるとともに、現在配備済みの防災機器等の「高台への移設」、「格納容器のフィルタ付ベント設備設置」を行い安全の確保に取組み、地域及び地元関係者の皆様の理解や信頼確保に全力で努めてまいります。

また、安全性に関する総合評価（ストレステスト）についても、その結果を取り纏め報告、公表してまいります。

本年度は、定期検査の確実な実施と、地震・津波に対する安全対策に万全を期してまいります。その上で、地域の皆様へ十分な説明を行い、再稼動に向けて国、地方自治体と十分な協議をさせて頂きたいと考えております。

（添付資料－１参照）

１．運転計画

平成２４年度の東海第二発電所の運転計画は、以下のとおりです。

・発電電力量：未定

・定期検査　：平成２３年５月２１日開始

（燃料装荷時期及び定期検査終了日は未定）

２．主な工事等

（１）東海発電所

１）廃止措置工事

２号熱交換器本体等の撤去工事を継続します。

「放射性物質として扱う必要のない物（クリアランス制度対象物）」については、引き続き再生利用等資源の有効活用に取り組んでいきます。
（添付資料－２参照）

（２）東海第二発電所

１）使用済燃料乾式貯蔵設備の増強工事

貯蔵容器２４基中１７基の製造が完了しており、今年度は、第四期工事分の貯蔵容器４基ならびに第五期工事分の２基の製造が完了する予定です。（添付資料－３参照）

２）格納容器のフィルタ付ベント設備設置

シビアアクシデント等において周辺環境への放射性物質の放出を抑制するための、格納容器のフィルタ付ベント設備設置に向けた詳細検討を行い、必要な手続きを進めてまいります。（添付資料－４参照）

（３）東海発電所・東海第二発電所

１）放射性固体廃棄物処理設備

固体廃棄物の減容・固化と埋設施設への搬出を推進するため、セメント混練固化装置を設置しておりますが、東海発電所の固化装置については、今年度中に運用を開始する予定です。（東海第二発電所の固化装置は平成１７年から運用中）

２）固体廃棄物作業建屋の設置工事

発電所内に保管している放射性雑固体廃棄物の円滑な減容処理等を図るため、平成２２年４月より設置工事に着手しており、今年度中に運用を開始する予定です。（添付資料－５参照）

３．　燃料等輸送計画

（１）新燃料、使用済燃料

・新燃料輸送体数　：１９２体

・使用済燃料の輸送計画は、ありません。

（２）低レベル放射性固体廃棄物

・低レベル放射性固体廃棄物の輸送計画はありません。

４．添付資料

添付資料－１　　東海第二発電所　安全対策実施状況
添付資料－２　　東海発電所　廃止措置
添付資料－３　　東海第二発電所　使用済燃料乾式貯蔵設備
添付資料－４　　東海第二発電所　格納容器フィルタ付ベント設備概要
添付資料－５　　東海発電所・東海第二発電所　固体廃棄物作業建屋の設置工事

以　上

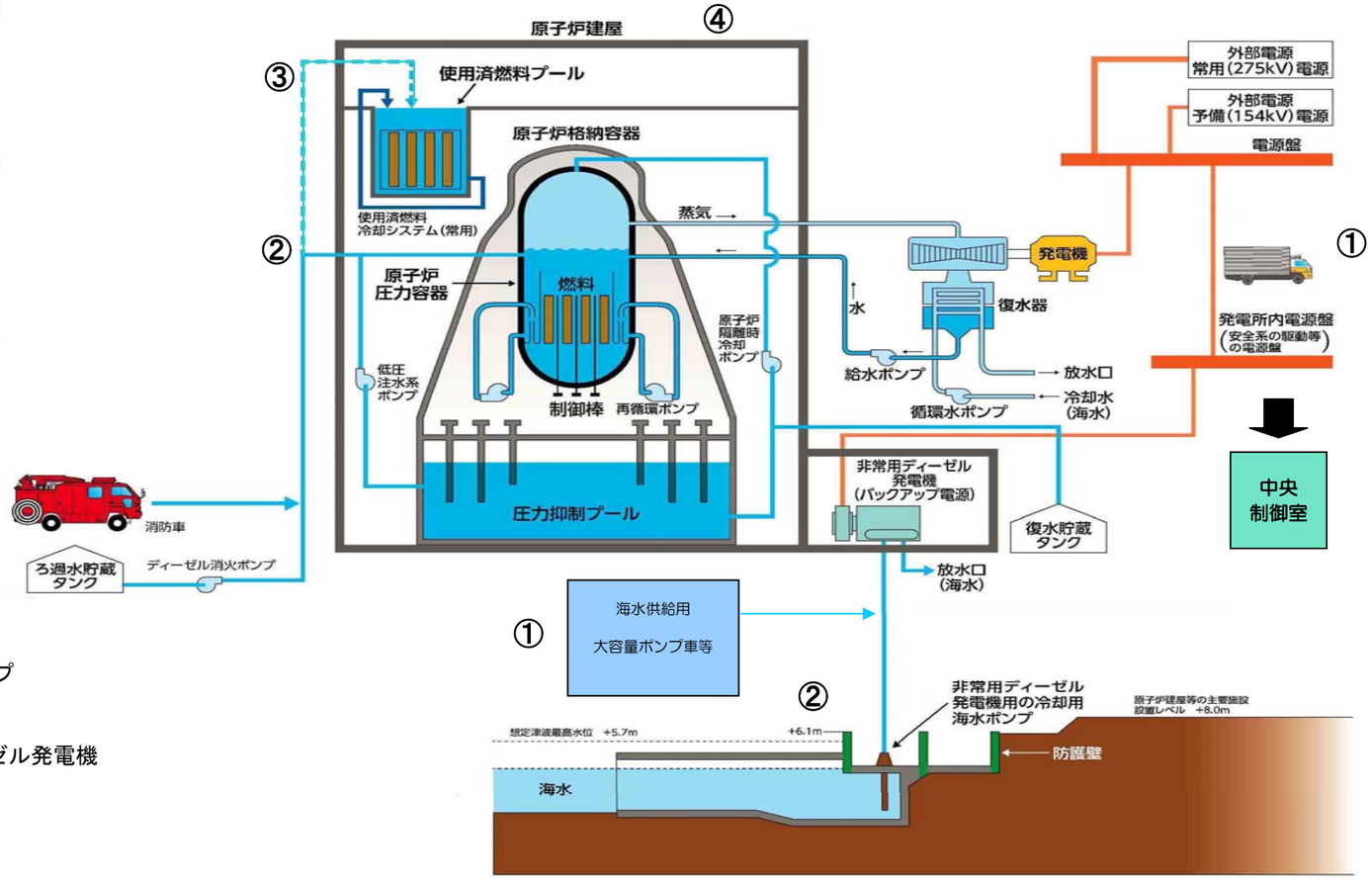
東海第二発電所　安全対策実施状況

① 電源の確保

■非常用ディーゼル発電機代替設備の配備（ケーブル敷設済）
低圧電源車に加え、原子炉の冷却のためのポンプや計測装置などに必要な電力を供給できるよう、大容量の高圧電源車（１，７２５ｋＶＡ）を高所に５台配備します。
平成２３年１１月　３台配備済み
平成２４年６月頃　２台追加配備予定

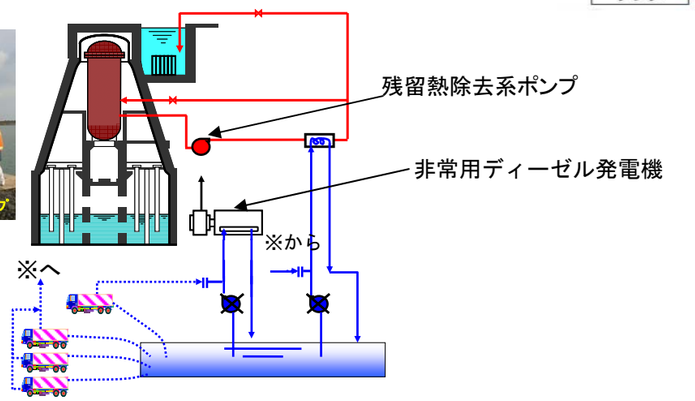
■電源車の配備
すべての電源がなくなっても、原子炉を冷却したり、中央制御室の監視機能を維持したりできるよう、電源車（ディーゼル発電機および接続ケーブル）を津波の影響を受けない高台に低圧電源車（容量：５００ｋＶＡ）を３台配備しました。

■非常用ディーゼル発電機冷却用ポンプの配備
非常用ディーゼル発電機を冷却する海水ポンプが津波により使えなくなった場合に備え、大容量ポンプ車を高所に１台配備しました。



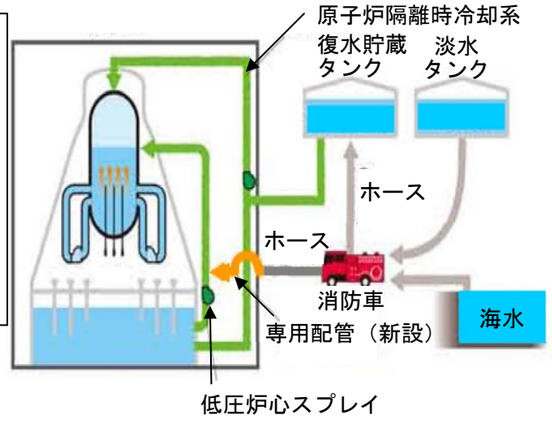
① 水源確保（代替海水ポンプ：大容量ポンプ車の配備）

残留熱除去系海水系が使用できなくなった場合の水源確保として充分な流量を確保できる代替のポンプ（大容量ポンプ車）３台を配備した。



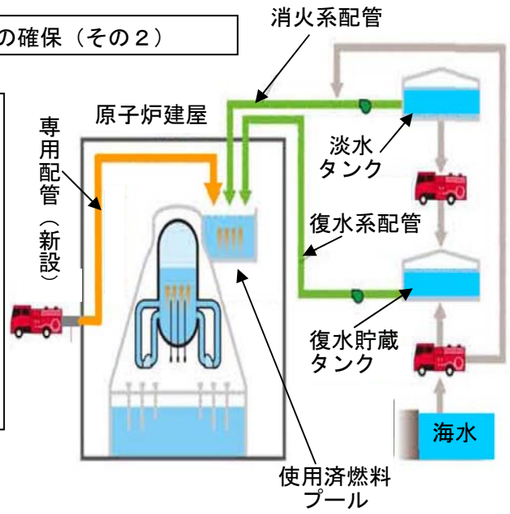
② 原子炉の冷却機能の確保（その１）

■原子炉の冷却機能の強化
緊急時に原子炉を冷却するための水源となる復水貯蔵タンクに淡水タンクなどの水や海水を補給するため、消防車・大容量ポンプ車（ポンプ・ホース）を配備しました。
消防車などから直接、淡水などの水を供給するための専用配管を設置します。

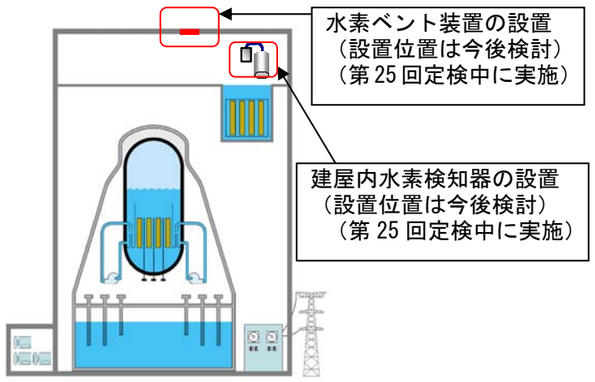


③ 原子炉の冷却機能の確保（その２）

■使用済み燃料プールの冷却機能強化
緊急時に復水貯蔵タンクから使用済み燃料プールへ冷却水や海水を補給するため、消防車・大容量ポンプ車（ポンプ・ホース）などを配備しました。
また、消防車などから直接、冷却水や海水を供給するための専用配管を新たに設置します。

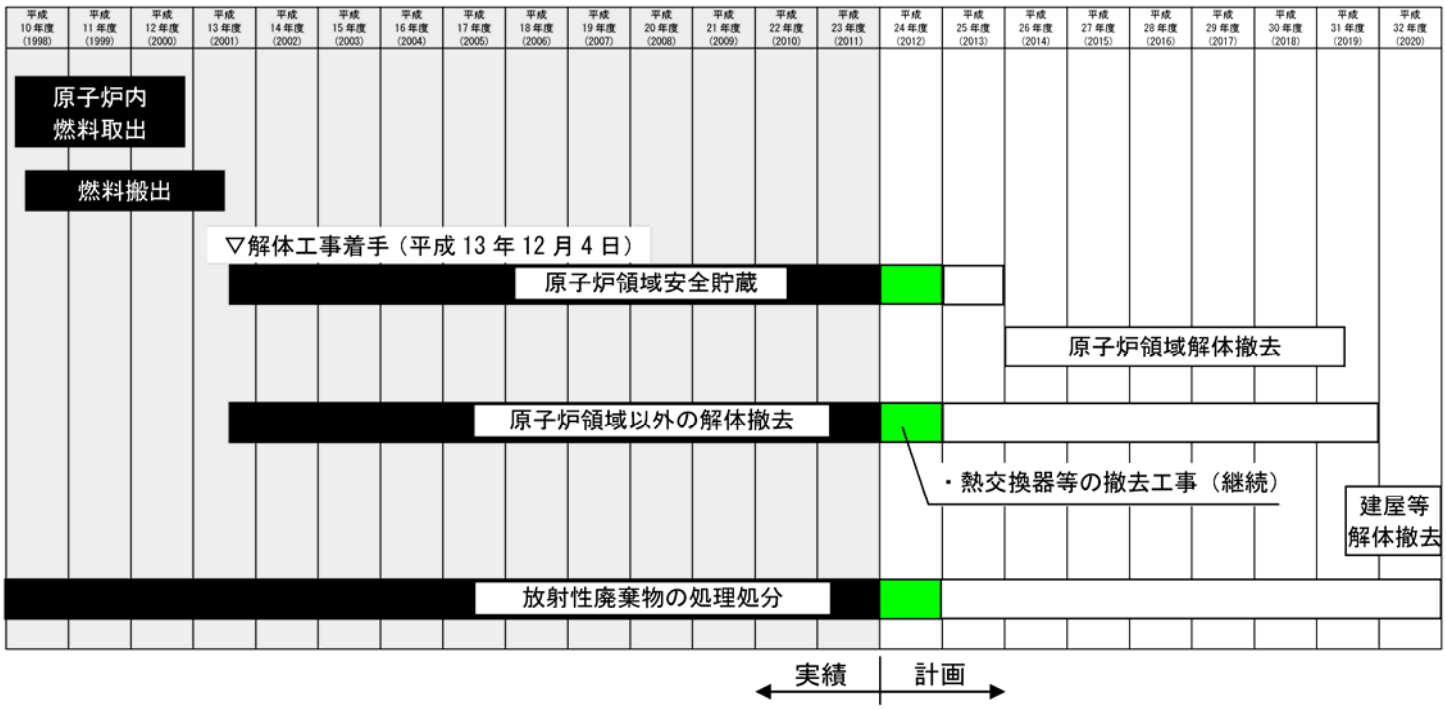


④ シビアアクシデント（過酷事故）への対応に関する措置
－水素爆発防止対策－

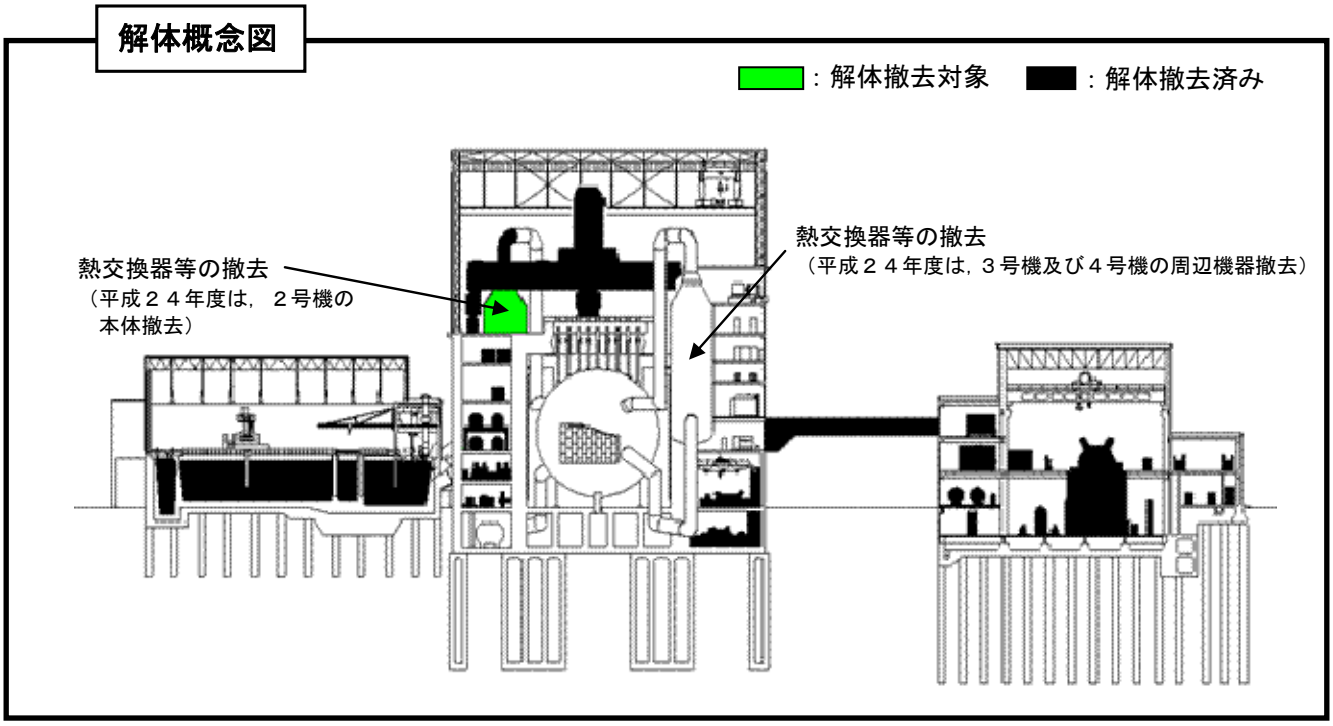


東海発電所　廃止措置

廃 止 措 置 工 程

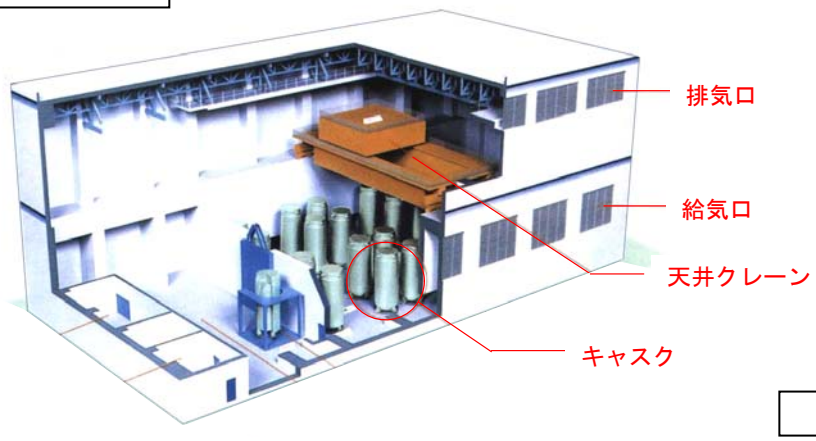


解体概念図



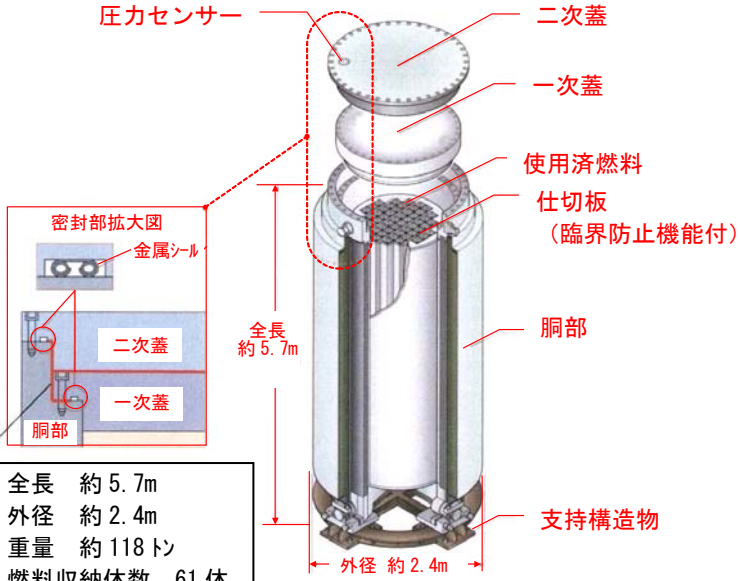
東海第二発電所　使用済燃料乾式貯蔵設備の増強工事

貯蔵施設の概要



貯蔵容量	：貯蔵容器　24 基 （ウラン重量約 260 ﾄﾝ）
建屋概要	：貯蔵容器 24 基収容
構　　造	：鉄筋コンクリート造

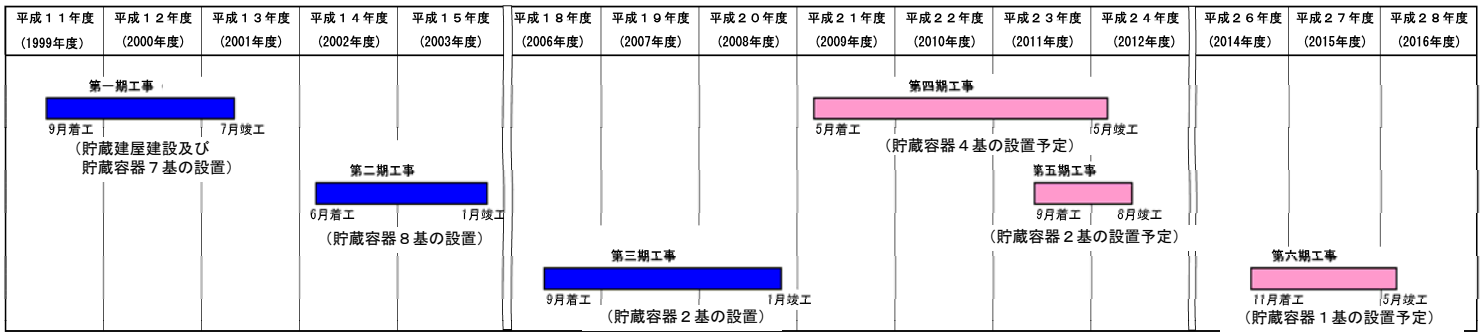
貯蔵容器の構造



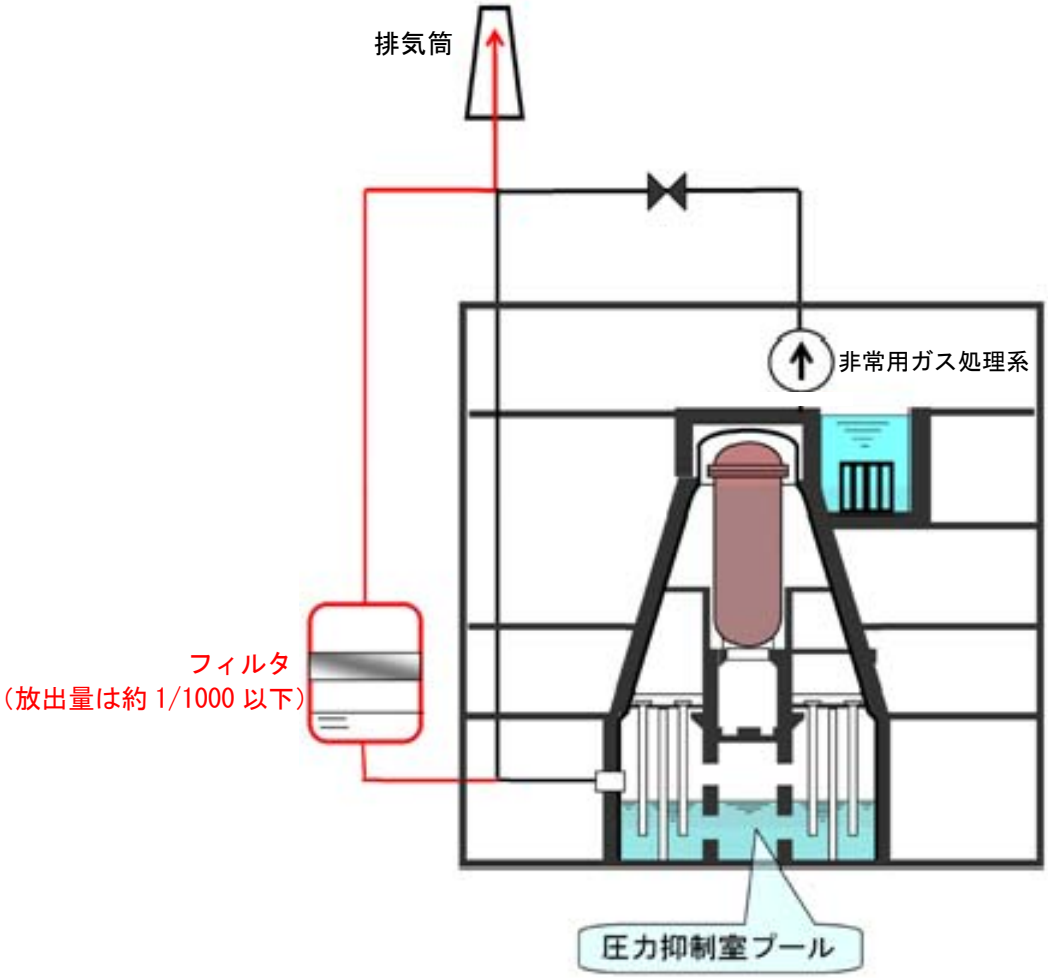
圧力監視部
（赤線部）

全長	約 5.7m
外径	約 2.4m
重量	約 118 ﾄﾝ
燃料収納体数	61 体

使用済燃料乾式貯蔵設備スケジュール



東海第二発電所　格納容器のフィルタ付ベント設備概要

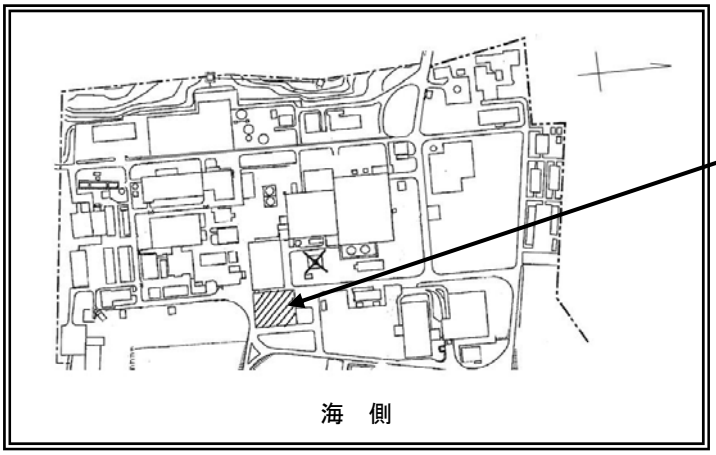


・従来から設置されている圧力抑制室プール水を介したベントにより，放出量を低減可能

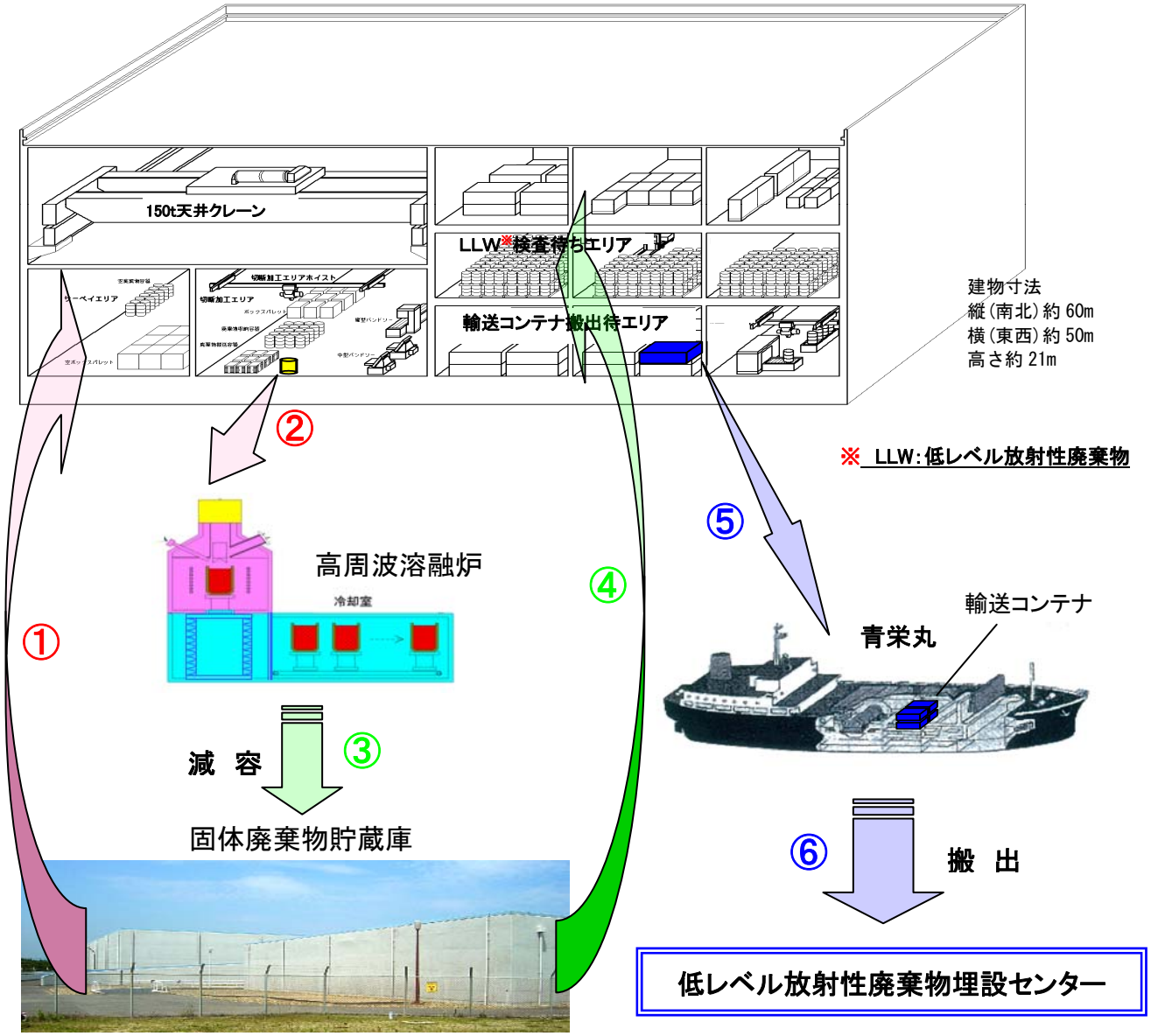
・フィルタの追加により、放出量を約1/1000 以下に低減・抑制を図る。

・設置場所，構造，弁等の付属機器の仕様等について詳細を検討中。

固体廃棄物作業建屋の設置工事



建物東西方向断面図



○内の番号　：　低レベル放射性廃棄物の処理及び搬出順路